

# 「病とむきあう」藩医たち —江戸の医療倫理—

日時：平成30年12月9日(日)

午後1時30分～3時50分

場所：津山洋学資料館GENPOホール  
(津山市西新町5)

入場無料  
事前申込み不要

講演(各30分) 午後1時40分～3時20分

「「病とむきあう」藩医たち—その時代・環境・思想—

東洋大学文学部教授

岩下哲典 先生

「華岡青洲が開発した乳がん手術と近代医学」

(公財) いづも財団事務局次長

梶谷光弘 先生

「美作における華岡流門人の足跡に思う」

津山洋学資料館元館長

下山純正 先生

シンポジウム(30分) 午後3時20分～3時50分 ※上記3名の先生方によるシンポジウム

江戸時代、藩に仕える医師(藩医)たちは、どのように患者にむきあい、治療を行なったのか? 世界で初めて全身麻酔による乳がん摘出手術を成功させた華岡青洲、そしてその弟子たちの活動を中心に考えます。

岩下哲典 いわしたてつり



東洋大学文学部史学科教授。専門は幕末維新史(情報史)。博士(歴史学)。主な著書に『津山藩』『病とむきあう江戸時代』『江戸城無血開城 本当の功労者は誰か?』などがある。

梶谷光弘 かじたにみつひろ



(公財)いづも財団事務局次長。島根大学特任教授等を歴任。華岡青洲研究で日本医史学会関西支部から医譚賞を受賞。著書に『華岡流医術の世界』(共著)などがある。

下山純正 しもやまよしまさ



津山洋学資料館元館長。専門は医学史、洋学史。美作地域で活動した在村蘭学者たちを長年調査。著者に『在村蘭学の展開』(共著)などがある。